文を作り、他人の文章を見て好んで指摘するに、その病に中らざることなかつたといふ。

シマサキトクベエ　島崎德兵衞　河北郡向粟ヶ崎の豪富で、その祖先は能美郡島村からこゝに移り、世々德兵衞と稱した。九代德兵衞の時渡海船十一隻を有し、粟崎の木屋藤右衞門、宮腰の錢屋五兵衞と共に、藩の御金御用となつて居た。十一代德兵衞の時明治維新に會し、爲替會社と稱する銀行を創めて產を破つた。

シマダ　島田　能美郡德橋鄕に屬する部落。山口記慶長五年淺井畷合戰の條に、『稻垣與右衞門其外數軍掛橋口に馳付、島田村・御舘村二ヶ所に火を掛燒立る。』とある。

シマダイチロウ　島田一良　幼名助太郎。嘉永元年金澤に生まる。父金助は炮術に長じたので足輕に擧げられ、大組小頭に任ぜられた人である。一良初め藩の洋式兵術練習所たる壯猶館に入り、銃炮の操法を學んで亦足輕となつたが、明治元年齡二十一にして越後の戰に從ひ、創を負うて下士に進み、次いで假少尉・少尉を經て准中尉に進み、四年藩兵解散の前に之を辭し、東上して陸軍士官齋藤正言の私塾に學んだ。然るに一良は年旣に長けて官立の學校に入るの望がなかつたから遂に金澤に歸り、それより政治に奔走するに至つた。この後一良は、加賀藩が巨封を擁しながら王政維新に會して何等爲す所なかつた不名譽を恢復する爲に、一快擧を爲すの必要があると考へ、七年江藤新平が佐賀に亂を爲した時これに應ぜんと謀り、同年臺灣征伐の事あるや又從軍を出願し、九年前原一誠の萩の亂にも加らうとしたが、皆志を遂げなかつた。一良は又豫て薩南健兒の意氣に共鳴する所あつたが、十年西鄕隆盛の擧兵失敗するに及んで、要路の大官を暗殺し、現政府を倒して國威の發揚に資せんと謀り、その目標を參議大久保利通に擇んだ。是を以て一良は、十一年三月二十五日鄕を發し、神戸を經て海路東上し、同志長連豪・脇田巧一・杉本乙菊・杉村文一及び島根縣士族淺井壽篤と會して計畫を進め、五月十四日午前八時利通が霞ヶ關の邸を出で、二頭立の馬車に乘じ、赤坂の皇居に赴かんとして紀尾井町淸水谷に至るを要し、連豪は一の馬脚を斬り、乙菊は他の馬脚を拂ひ、一良は利通を車中に刺し、他の同志亦之を引下して斬殺した。一良等乃ち宮門に至つて自首し、鍛冶橋監獄に囚へられ、七月二十七日市ヶ谷監獄に於いて斬刑に處せられた。時に年三十一。

シマダカンエモン　島田勘右衞門　父は與兵衞。大坂再役に二三ノ丸の間に於いて敵首一つを獲、祿を加へて五百石に至り、能登奥郡裁許・足輕頭に歷任し、萬治元年に歿した。

シマダカンペエアゲチマチ　島田勘兵衞上地町　↓シマダマチ　島田町。

シマダキン　島田勤　通稱權五郎。諱は勤、字は子儉、號は豹齋。文化九年家を襲いで馬廻組に列し、文政四年檢地奉行となり、翌年竹澤御殿の書院組となつた。前田齊廣の卒後十一年越中新川郡の銀坑を管し、多年の爭議を解決して功があり、後諸職を經、弘化三年十月十日六十歲を以て歿。

シマダジユウベエ　島田十兵衞　寬永二年前田利常に仕へ、御射手に任じ、百五十石を受けた。子孫相繼いで藩に仕へる。

シマダセイエモン　島田淸右衞門　慶長十五年父纐纈治左衞門の遺知二百石を襲ぎ、母の氏によりて島田と改め、萬治二年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

シマダタダオミ　島田忠臣　島田忠臣は菅原道眞の伯父である。淸和天皇天安三年（貞觀元）渤海國使能登に來り、加賀に便處せしめられたが、副使周元伯極めて文章に嫻つたから、三月十三日越前權少掾であつた忠臣を假に加賀權大掾たらしめて、かの國に赴き周元伯と唱和せしめた。他年道眞が加賀國司を兼ねた時、自らその光榮を喜び、一律を賦して忠臣に贈つたが、この時美濃守であつた忠臣はその韻に和した。

シマダバンジユウロウ　島田伴十郎　諱は十方。藩の老臣本多氏に仕へて足輕であつた。明治元年藩兵の伍長となり、二年三月歸休したが、尋いで故主本多政均の暗殺せられた後報復の擧に與り、四年十一月その仇石黑圭三郎を東京に襲擊せんとしたが得ず、遂に自首して禁錮三年に處せられた。廿七年歿する時五十七。

シマダホ　島田保　石川郡に在つた。應永廿一年四月十九日附足利義持の敎書に、『加賀國中略島田保內五段事、早任相傳知行之旨倉光藤增丸可領掌狀如件。』とある。今上島田・下島田が存する。

シマダマサトモ　島田正知　大聖寺に居住した浪人。通稱與三郎。金澤に於いて宮城角兵衞正直から含泉流の槍術を習ひ、後大聖寺にあつて之を敎授するに及び、正知流（マサトモ）とも正智流とも稱した。

シマダマチ　島田町　金澤の町名。鵜尾記に、嶋田町は古へ嶋田權五郎が住居した所であるとするが、金澤古蹟志にはそれを誤としてゐる。曰く延寶の金澤圖を見れば、此の一町は都べて武家屋敷で、北側は嶋田勘兵衞・渡部勘右衞門等の居邸、南側は井上八左衞門・同久太郎等の居邸である。又元祿六年の士帳に、嶋田勘兵衞を專光寺後井上勘左衞門筋向角と見えて、延寶・元祿の頃にはこゝに嶋田勘兵衞が居たが、その後邸地を返上し、地子地となつたと見えて、元祿九年の地子町肝煎裁許附に、柳町の次に嶋田勘兵衞上地町とある。是則ち今云ふ嶋田町で、元祿以後この名稱が始つたのであると。

シマダマチハチケンチヨウ　島田町八間丁　金澤島田町の小名で、古へ家屋が八軒あつたからの名だといふ。今尙俗間にこの名を呼ぶものがある。

シマダヨヘエ　島田與兵衞　前田利長に仕へ、二百石を受け、慶長十八年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

シマノイツキク　島野一夘　金澤の俳人で、行脚に暮らしたやうである。希因の門。桂下坊・宋緣齋・蓑笠人などゝも號する。曾て秋之坊の書蹟を義仲寺に奉納した。安永・天明の頃の人。

シマノジ　島之地　能登島をいふ。島八ヶといふもこれに同じい。

シマノリ　島海苔　鳳至郡舳倉島で產する黑海苔を名產として島海苔といふた。大澤村內記所藏文書天正九年二月廿九日柴田勝家から溫井備前守に宛てた書翰に、『御使札於京都相達候。仍嶋海苔箱一被懸御意候。云々。』と見える。藩政時代では舳倉海苔とも舳倉島海